

令和2年2月

第2回白山市総合教育会議

会 議 録

白 山 市

令和元年度 第2回 白山市総合教育会議

日 時 令和2年2月12日（水）午後3時30分

場 所 白山市役所4階 402会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会議事項

- （1）白山市教育大綱の策定について
- （2）教育施策に係る意見交換について
 - ・外国語指導助手の活用について
- （3）その他

4 閉 会

出席委員

白山市長	山 田 憲 昭
白山市教育長	松 井 毅
白山市教育長職務代理者	水 洞 満 子
白山市教育委員	竹 内 千恵子
白山市教育委員	北 田 朋 幸
白山市教育委員	小 寺 正 彦
白山市教育委員	尾 張 勝 也

欠席委員

事務局出席職員

教育部長	毛 利 文 昭
学校教育課長	山 内 満 弘
学校指導課長	日 向 正 志
生涯学習課長	重 吉 聡
子ども相談室長	岩 村 順 子
松任図書館長	中 村 泰 広
文化振興課長	谷 野 美 紀
文化財保護課長	徳 井 孝 一
スポーツ課長	東 俊 昭
学校指導課主任管理主事	木 下 貴 博
教育総務課長補佐	笹 津 剛
教育総務課長補佐	河 奥 裕 子

傍聴者 2 名

開会 午後 3時40分

○教育総務課長補佐（笹津 剛）

定刻になりましたので、これより令和元年度第2回白山市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議につきましては、原則どおり公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。

○構成員

（異議なし）

○教育総務課長補佐（笹津 剛）

それでは、公開とします。

◎市長挨拶

○教育総務課長補佐（笹津 剛）

開会にあたりまして、山田市長からご挨拶を頂きます。

○市長（山田 憲昭）

本日は、第2回白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために、多大なご尽力を賜っておりますことを、心から感謝申し上げます。

はじめに、最近の教育施策についてであります。

本市は、総合計画の掲げる「健康で笑顔あふれる元気都市白山」の実現に向け、昨年3月に健康都市宣言を行いながら、人も、自然も、まちも、全てのものが

元気なまちづくりに取り組み、各種施策を進めております。

特に、定住の受け皿となる区画整理事業においても順調に進捗する中、東明小学校において、来年度、普通教室が不足するため、既存の会議室を普通教室に改修することとし、所用の経費について、12月会議に補正予算を計上したところであります。

今後も児童の増加が見込まれることから、計画的に必要な教室を確保すべく、増築・改修等の計画案をお示ししながら、教育環境の充実にしっかりと対応してまいりたいと考えております。

それでは、本日の会議についてであります。

昨年7月に開催した、前回の当会議では、来年度から4か年計画となる次期白山市教育大綱の策定に向け、現在の大綱の基本理念であります「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」を引き継ぎながら、持続可能な教育の実現のため、SDGsの理念と連動していく大綱となるよう、委員の皆様にご意見をいただきました。

その貴重なご意見を踏まえ、大綱案を作成いたし、委員の皆様にもその都度、ご確認をいただきながら、策定事務を進めてまいりました。

本日は、最終案を、お示しをし、本会議にて策定いたしたいと思っております。

また、教育施策に係る意見交換では、学習指導要領の改訂により来年度からスタートする「外国語教育」の導入にむけて、「外国語指導助手の活用について」をテーマといたしておりますので、委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いをいたします。

○教育総務課長補佐（笹津 剛）

ありがとうございました。

これより会議事項に移りたいと思います。議事の進行方につきましては、主宰者であります市長にお願いしたいと存じます。それでは、市長よろしく願いいたします。

◎会議事項

○市長(山田 憲昭)

それでは、会議事項に入りたいと思います。本日の協議議題は二つあります。一つ目は「白山市教育大綱の策定について」、二つ目は「外国語指導助手の活用について」であります。

忌憚のないご意見など、色々と意見交換ができればと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

まず協議事項（１）について事務局より説明をお願いします。

○教育総務課補佐（笹津 剛）

（資料１にて説明）

◎意見交換

○市長(山田 憲昭)

ただ今、白山市教育大綱（案）について事務局より説明がありました。

今まで協議をしてきたことと思いますが、最後に、委員の皆さんからのご意見を伺いたいと思いますのでよろしく願いいたします。

まず尾張委員からお願いします。

○委員（尾張 勝也）

教育大綱の策定にあたって事務局より説明がありましたが、何よりも白山市がSDGs未来都市に指定されているということで、SDGsの理念とどう絡めていくかが、大事であると思っています。皆さんご存じのとおり、私は、山麓の方で自然体験と言いますか、自然をベースにいろんな活動をさせて頂いたので、特にSDGsの持続可能という言葉は、昔からあったんですけれ

ども、今こうして取り上げられて、今、現在の世の中というのは持続可能な世の中ではないと思っています。難しい世の中であると思いますので、持続可能な世の中をつくっていくことはいったいどういうことなのか、単にかけ声だけではなく、今一度考えた方がいいと思います。自然に即してものをやっている、私から見ますと、今の世の中は過剰な贅沢さを求める世の中だと思っていますので、もう少し我慢という言葉ではないのですが、そのようなことを抑制して、持続可能とは簡単に言いますが、めちゃくちゃ難しいと私は思っている、持続可能な社会づくりをするには、我々が今までの生活を根本から見直すような事が必要だと思っています。それが、白山市にとってだけではなく、世の中にとって一番大事な事だと思っているので、この白山市SDGsの未来都市になって、我が白山が世界に誇れるような自然環境がある。これを生かす。いつも言うんですけれども、今現在、自分も含めて、白山市の自然豊かな自然を生かしきれていないと思うので、まだまだ出来ることをやらなければいけないことがあると思います。

私としては、教育全般、色々なことをやらなければいけないのですが、持続可能、特に自然と人間という関係、この辺りを白山市は、他にはできない、いろんなエッセンスを持っていますので、それを生かしていただきたいなあとと思っています。私としても持続可能という言葉等にこだわって、この間、話をさせていただきました。個人的な意見としては、確かな学力という場合の学力の定義については、単にテストの点数が高い、低いという学力ではなく、読解力であるとか、思考力であるとか、いろんな意味の総合的な力としての学力というふうにこれを捉えていきたい。ともすると、学力というと、学力テストの点数に偏ってしまいましたが、そうではない部分での、子どもたちに付けさせたい学力というものはどんなことかということを、きちんと考えていかなければいけないと思っています。

あとは、感性という言葉にすごくこだわっていて、白山市は以前から、豊かな感性ということが教育の中に色々と何度も出てきている。感性とはとっても大事なものだとは私は思っていて、これも、豊かな感性というのは簡単なんですけれども、実際にそれを養うというか、育んでいくのはすごく難しいことだと思っていますので、ぜひこの大綱を、今まで以上に豊かな感性とは何か、それを

育むために我々はどういう教育を求めていけばいいのか、白山市とともにやっていけたらいいのではないかと考えています。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。大綱的にはこれでいいということですね。

○委員(尾張 勝也)

はい、大枠はそのとおりです。

○市長(山田 憲昭)

それでは小寺委員お願いします。

○委員(小寺 正彦)

私は本当にいいものができたと思います。特に大綱の位置付けと期間については、白山市の教育大綱と白山市教育振興基本計画（改定版）と繋がったこと。4年後に完全に一致するということで、作る側として良かったと思っています。また、基本理念・基本目標については、特に郷土愛を育む教育の推進というところで、白山市は大変広い市にも関わらず、③に「公民館や地域住民が主体になった」という文言を入れたことで、市と市民と一緒に推進ができるようになったことが本当に良かったと思っています。もう一つは、確かな学力の形成と教育環境の整備というところで、今年から教育改革がものすごく、国の方で変えていくということですが、その中でも外国語教育や情報教育プログラミングなどの充実ということが入っていますので、結構、満足できるものが出来たと思っています。

全体的に何回か見ながら、訂正等はありませんでしたが、本当に良いものが出来たのではないかと考えています。

○市長(山田 憲昭)

それでは竹内委員お願いします。

○委員（竹内 千恵子）

私も未来のことを考えて、きちんと見据えたものができたかなと思っています。それから、白山市の自然というものを尾張委員が熱く語られているわけですが、たとえば、白山ユネスコエコパークというのは、日本に10カ所しかないわけで、本市がその一つだということを子どもたちに理解させ、きちんと教えて、これから市が益々発展していけばいいかなと思っています。

これまで大変、色々と細かいことを申しましたが、事務局の方は大変だったかなと思います。本当に誇らしいものができたかなあとと思っています。後は、これを作ったからではなく、どうやって肉づけしていくか、具現化していくか。子どもたちや市民のためにどう教育行政に反映していくかが、問題になってくるかと思っています。

○市長（山田 憲昭）

それでは北田委員お願いします。

○委員（北田 朋幸）

私もいいものができたなあと 생각합니다。今の時代に沿って構成してありますので、この4年間でどのように実行していくかが、一番大事なことだと思いますが、この大綱が指し示すものが、すっきりとしたものになったので良かったと思います。

○市長（山田 憲昭）

それでは水洞教育長職務代理をお願いします。

○教育長職務代理者（水洞 満子）

7月の総合教育会議で意見交換して以降、5か月の間に機会を見つけては話し合いの場を持ちました。その度に、それぞれの立場や経験から出てくるお話が大変興味深く、教育大綱について一步踏み込んで深く考えることができました。ありがたい話し合いの場であり、とても良かったです。

5年間の白山市の変化に対応していますし、変わらずに大切にしたいもの、今以上に意識して、大切にしなければならないものがはっきり浮かび上がったように思いました。いいものができたと思います。事務局の方もお世話ありがとうございました。

○市長(山田 憲昭)

それでは教育長お願いします。

○教育長(松井 毅)

はい、私もこれでいいものができたと思います。

とりわけSDGsの理念に沿った取組の推進ということで、持続可能な地域社会を創っていく、といった意味からも、やはり、自然環境の保全等を謳ってあるので特にいいなあと思いました。

私は今回、命の尊さとかは前回から謳ってあったのでいいんですが、自然環境の保全等について今回はこだわらせていただきました。そういった文言も入っています。

それから、今頃思ったのですが、「健康な心と体を育む教育の充実」の中に、感性豊かな人間力を育むという中で、芸術活動、自然体験活動とかがありますが、私は、感性を育む一つには、読書もあるのではないかと思います。その辺を少し入れればよかったなと思っています。

上の方に「確かな学力の形成と教育環境の整備」の中に、市立図書館や学校図書館の充実という中で謳われていると言えればそれまでなんですが、私は、感性を育む教育は、白山市の教育だろうと思っています。その中には、やはり読書を進めるという大きな施策もあるわけで、ひょっとしたら入れた方がよかったかと、今頃になって思っています。

○市長(山田 憲昭)

どうもありがとうございました。

このSDGsにつきましては、おかげさまで、国連が2015年に提唱し、2年前に自治体版ということで、全国29団体の中の一つに白山市が入りました。

それと同時に、ユネスコエコパークについてはもう40年経ちますし、ジオパークについては8年経ちます。これはすべて国連です。それで、3つ一緒に行っているのは白山市だけです。そういう意味では全国初といいますか、ジオパーク、エコパークと一緒に世界を目指すこともそうですし、それに関連してSDGsを行うというのは、非常に大事なことになります。SDGsはまさしく全体の項目を取り扱うことですので、結果としてSDGsという言葉が根づいていくことが一番いいことになるかと思います。よろしくお願い致します。

それでは、修正するところがないようですので、これをもって策定することといたします。ご協力ありがとうございました。

○市長(山田 憲昭)

では次に、協議事項(2)

「外国語指導助手の活用について」ですが、先に市内で実施した英語授業風景のDVDを観た後で意見交換をするということでお願いいたします。

○学校指導課長(日向 正志)

それでは、東明小学校の5年生の授業と、松任中学校の1年生の授業の2本を見ていただきたいと思います。

(資料2「外国語指導助手の活用について」DVDの準備及び説明)

○もうすぐ卒業してしまう6年生についてもっと知るためにインタビューをして、紹介カードで6年生のよさを紹介する。

○自分のお気に入りの本を紹介したり、相手のお気に入りの本について質問したりしながら、本の魅力をもっと知る

このように、各小学校・中学校において、子どもたちとともに取り組んでいる状況です。子どもたちの英語を英語で考える力に繋げていきたいと考えて、ALTを外国語授業に取り入れた形での授業を進めているところです。

○市長(山田 憲昭)

それでは、DVD及びその他の外国語等について、各委員皆様からご意見をいただきたいと思います。尾張委員からお願いします。

○委員(尾張 勝也)

A L Tそのものよりも、もう少し広い感じでお話ししたいと思います。

本当に今、英語教育が来年度から教科として入ってきますが、まだ条件整備がされていないなと思います。少し話がズレるかもしれませんが、現場の子どもたちも先生もすごく忙しくて、アップアップしているか、悲鳴を上げている状況の中で、また英語も入ってくるということで、先生方も子どもたちもただでさえ余裕のないのに、どんどん余裕がなくなってくると思っています。

英語教育を本格的に実施するに当たって、ただやらなければならないものとして追い込むのではなく、そうならないようにしてほしい。ということからも、私は教員でしたから、自分が今、英語をしなければと言われれば、どうしようと、英語もしゃべれないのにと思っています。小学校であってもA L Tだけではなく、英語専科も配置してほしいなと思います。極端な言い方をするが、英語は得意な人に任せるくらいに、今は過渡期としてですが、そういうふうにしていただきたいなと思います。A L Tが入るにしても、ちゃんとした発音を子供たちに聞かせることはとても大事なことでありますし、私は今から練習しても、する自信はありませんし、スキルを求められてもできませんので、できる人たちを活用して、子どもたちにきちんとした英語を聞かせる。あるいは、英語に触れさせることがとても大事だと思います。

実際に授業を組むとしたら、教員とA L Tの事前の打ち合わせ等の時間も必要になってくることだと思います。本当に大変なことだと思いますが、現場も子どもも大変にならないようにしてほしい。外国語が教科になるからといって、ここ白山市が英語圏になるわけではないので、そこを勘違いすると、日常会話も家庭も、何でも英語でやればいいみたいな動きがあって、私は、当然、日本語もこれまで以上に大事にしていってほしいなと思っています。

○市長(山田 憲昭)

それでは次に小寺委員お願いします。

○委員(小寺 正彦)

まず、DVDを観させていただいたのと、実際の授業を観させていただいたのでは、実際の授業の方がすばらしい授業でした。その他に、学校訪問の時の英語の授業と比較してお話をさせていただきます。

どうしても2020年から英語が小学校で教科になります。5、6年生は、英語が完全に点数を付けられるという時代になってきたということを踏まえて、白山市でも、外国人の方々も結構勤めて頂いていますし、結構、外国の方と出会う機会が増えてきています。

これから学校教育では、必ず英語を学ばなければいけません、先ほど尾張委員も言われたように、先生方が、まだ英語教育について、小学校の場合は、まだ十分になっていないということを深く思いました。中学校の英語教育は、結構しっかりしていますし、ALTと日本人教師のコミュニケーションも結構取れています。小学校になると、先生方はまだ完全に英語の先生じゃないという面もあります、教え方も十分でないということから、先生方の研修がもっともっと必要になるのではないかと思います。また、いろいろと聞いていますと、ALTと日本人教師の打合せをする時間があまりないということも言われていましたので、それらも踏まえ、もう少し、打合せする時間も取れるような教育環境になるようになっていったらいいなと思います。

○市長(山田 憲昭)

それでは次に竹内委員お願いします。

○委員(竹内 千恵子)

まず最初に、この授業を観させていただいて、あるいは公開授業、学校訪問をして私が思った印象は、ステージが一つ上がったなという感じがいたしました。これまでALTが来たら、ゲームとかをやって、その場かぎりで終わってしまう。今度の授業を観させていただいた時に、流れがきちっとあって、その

中の1時間がこの授業ですよ。と、きちっと筋が立っている中での授業の位置づけだったなという印象を受けました。これはなぜかと考えました。やはりALTがかなり意識の高い、有能な人がきているのだろうな。教育委員会がきちっと指導をしてきたのだろうな、ということ。あるいは、日本人の先生方も経験を積んできたので言われっぱなしでなく、きちっと、ここは日本人としては、こうしなければいけないんだと、いうことを返せるようになったからじゃないかな。というふうに思いました。

2点目は、これからということを考えたら、私は二つ思います。

一つは、教育委員として回っていて、やはり教育には地域差があってはいけないな、と思います。ですから、ある地域にALTがいっぱいいるとか、あるところは、行くのに時間がかかるので少ないとか、そういうことがないような、特に白山市は石川県では一番広い市なので、地域差のないような、そういう教育をしていかなければならないのではないかと思います。どこにどんな子がいるのか分からないので、1学年数人しかいない学校の子が、将来ノーベル賞を取るかもしれないという、可能性を秘めている。学校の大きさによらない出来るだけ先見性に富んだ教育を白山市ではすべきではないかと思います。

二つ目は、先ほど市長から定住者が増えたというお話がありました。やはり若い人たちが、どこに家を建てようかと考えた時に、土地の値段が安い所とか、通勤に便利な所とか、病院とかスーパーが近い所というようなものもあるけれども、やはり私は、教育環境がきちっと整っているかどうかということは、一つの大きなファクターになるのではないかと思います。そういう面で、白山市には今、読書とか給食とか、ハードの面では校舎という非常に誇れるものがあるので、後はこれからのことを考えて、英語教育とか情報教育というものを強く打ち出して、若い人にアピールして、ますます市が活性化していけば、いいんじゃないかということを、英語教育と併せて考えてみました。

○市長(山田 憲昭)

それでは次に北田委員お願いします。

○委員(北田 朋幸)

私は実際の授業には行けなくて、DVDを観させていただきました。なかなか上手な授業であったと思います。ただ、学校訪問していると、やはり学級によっては、教え方の差が結構あります。先生とお話しをすると、先生とALTとのやり取りが、あまり時間がなくて出来ないことが多々あるとお聞きしていますし、白山市のALTの数に関しても、13名で250数時間を13人の方で回すのはかなり無理があるように思います。小学校に関しても、英語教育は特に、英語に対する劣等感を生ませないような教育をして頂きたいと思いますので、しっかりとした打合せのもとで、どのように子どもたちに興味を持って、英語を楽しんでもらうかを教育していただくためには、やはり、日本人教師とALTとの打合せはものすごく重要だなというふうに思います。なるべく沢山のALTがいれば学校にいる時間も長くなるので、しっかりとした打合せができるようになれば、英語教育を推進していく中で、地に足を付けた教育ができるのではないかなと思っています。どうも白山市のALTの数が少なすぎるように思いますので、出来る範囲で数を増やしていただきたいと思っています。

○市長(山田 憲昭)

それでは水洞教育長職務代理をお願いします。

○教育長職務代理者(水洞 満子)

イメージしやすいDVDありがとうございました。

頂いている冊子のNo. 282に載っています大阪松陰女子大教授の菅正隆先生のお話を紹介します。

「小学校の英語教育は聞くことができる。話すことができる。」という結果だけを求めるものではない。また英語教育は、高校、大学の入学試験だけのために行うものではない。これからは、生涯教育の一環として英語教育を捉え、その土台となるコミュニケーションの素地を築くのが小学校の英語教育である。

それでは、コミュニケーションの素地とは、英語がたのしい。人前でも大きな声で、恥ずかしがらずに、英語を話す。一生懸命人の話を聞く。など、英語の技術以前の英語に対する積極的な心の動きであるそうです。というお話が載

っていました。

それで、賛同するところもありますし、生涯教育と捉えるのであれば、学びたいと思う時が一番身に付く時かもしれません。とにかく、小学校の英語教育においては、先生があわてたり、あせって授業をして、子どもたちが英語を嫌いにならないように、プレッシャーがかかっているかもしれませんが、リラックスして、大らかな気持ちで、子どもたちが英語をおもしろいと思える授業であってほしいと思います。その上で、3、4年生が2020年、いよいよこの4月から英語の授業がスタートするにあたり、ALTの増員は欠かせませんが、増員するということでありありがとうございました。

尾張委員のお話の中にもありましたように、英語専科の日本人の先生も増えてほしいなあと願っております。

○市長(山田 憲昭)

それでは教育長お願いします。

○教育長(松井 毅)

私からは、意見というより現在こういう取組をしているお話しをさせていただきたいと思いますが、白山市教育大綱の中の、2番目の「確かな学力の形成と教育環境の整備」の中に、③外国語教育や情報教育の充実を図り、と謳っております。わたくし自身もこれからはこの二つ、外国語、そしてITを使った教育が一番大事であろうと思っておりますし、このあたり市長さんをお願いしながら力を入れていきたいと思っております。ただ、先ほど尾張委員さんも言われましたように、こればかりではなく、日本語もとても大事だろうと思っております。

私がよく言いますのは、令和に入りました。令和というのは万葉集からで、万葉集はやはり日本の美しい言葉を残していこうということで、捉えた言葉です。日本語の美しい言葉、あるいは日本の今まで大事にしてきた言葉というのは、やはり我々も大事にしていきたいし、国語という教科についてはやはり、これはなおざりにできるものではない。やはり力を入れていくべきであると、先ほど、読書の話をしました。これはとても大事であろうと思っております。

それから、また、ALTとの打合せの時間がないという話も何人かされまし

たけれども、打合せの時間もさることながら、A L Tと担任の先生との打合せをするときのコミュニケーション、要は、A L Tは英語をしゃべれるけれども、来たばかりのA L Tは、先生との会話が上手くいかない。日本語は分からない。そういった意味で昨年から、地域にずっと住んでいる地域の講師、こういった方を採用して、まず担任とのコミュニケーション、日本語をしゃべれる人をちょっと採用しています。やはり打合せの時間もさることながら、お互いにしゃべれないと、意思疎通ができないということは、授業の進め方であるとか、組み立てであるとか、なかなか上手くいかないなあ。流山市に視察に行った時に、A L Tが十何人かがいました。全部J E Tでなくて、教育委員会が面接して採用している。当然日本語をしゃべれる。といった人を採用している。やはりコミュニケーションが出来るA L Tは入れていきたいな。今年も実は予算的には2人の増員をしていただいております。J E Tになるか、それともやはり地域の講師で日本語をしゃべれる人になるか、ぜひ日本語をしゃべれる人を採用していきたいと思っております。やはり先生方は英語ができないというか、若い小学校の先生はそのようなことはないですが、ある程度の年配の人はかなり英語から離れていますので、やれというのは無理な話です。本来は英語専科を入れるべきですけれども、今現在、英語の専科が入っているのは、蕪城、東明、松任小の3人だけです。文科省は全国で2, 0 0 0人増やしたいと言っていますが、せいぜい1名しか増えない。ですからこの辺については、市長会、教育長会で、国の文科省の方には、要望を行っているところですが、ちゃんと英語の専科を配置した上で、英語の授業、教科というものは本来あるべきでしょうが、何か逆になっているように思っております。今後もその辺については、国の方にも要望をしておりますし、今後も要望していきたいと思っております。

○市長(山田 憲昭)

どちらにしても、A L Tが入った頃は、何でもいから英語を話しして、時間を過ごしてくれという形で、カリキュラムがないような形であり、個人個人の差に任せていたのが本当だったかもしれません。これからはしっかりと教科になるということです。教科書が出来て、それに則ってやっていくということになれば、A L Tも逆にやり易くやっていくのではないかと。人選に任せる

というのではなく、これに沿ってやってくれといえ、最低ラインが見えてくるのでいいのではないかと。教育長も言いましたように、日本語も分かる。日本風習も分かる。英語もしゃべれるという人はいいい講師であり、向こうから来る人は、来たい人だけです。日本へ来て英語を教えたいというだけなので、教える資格もない。だから教えることすら勉強せずに、来たいだけで来ていますので、慣れた人に教えてもらうのが本当はいいのかな。ということです。そのことが日本に求められている英語というものが、ここまで教えればいいというようなことになってくるのではないかと。JETよりも、地域の講師で日本語をしゃべれる人がいいし、ALTだと5年で帰っていつてしまうため、片手間でやりがちになってしまうため、腰を据えたような方が、先生としての蓄積も増えるということでは良いと思っておりますが、まずは2人増やしてやってみて、校長や教頭で補完して頂くようお願いしていくしかないのかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○市長(山田 憲昭)

教師とALTの対話や打合せが少ないというのは、日本語ができないからできない、というところから議論が始まったわけですが、そのところはどうか。

○学校指導課長(日向 正志)

英語が苦手な先生にとって見ると、なかなか細かい部分のニュアンスが伝えきれないというテクニックの部分と、結構時間が詰まっているので、打合せをする時間がない。特にALTは2校を掛け持ちしたりして、打合せの時間が合わないという時間的な問題があると思ひます。

○市長(山田 憲昭)

去年、ポケトークを持ってアメリカのコロンビアに行ったら大変便利でした。最近ハポケトークがすごく進化して、ものすごく対応が早いので、あれなら英語を勉強しなくてもいいかなと思ひます。専門性の言葉もでてきます

ので。

○委員(竹内 千恵子)

技術的にはポケトークとかで出来ますけれども、その裏にネイティブとはどんな考えをするのかという異文化理解というものもやはり必要になって、それは日本語で言うにしても、日本語で考えるにしても、その文化を理解しておくことが大事ではないかと思います。どんなに流暢な英語をしゃべる日本人の先生も、やはり教えることはできなくて、やはりネイティブの人が来て、生徒たちが拙い英語でも、聞かれたことに答えていく。ほとんどwhyの世界なんです。なんでそう思うんだ。あなたの意見は何だ。日本人はめんどくさいし、どっちでもいい。と、私の経験では子どもたちは言うんですけれども、やはり、それが自分の意見としてきちんと言えるかどうか、それは英語が上手、下手とかではなくて、ものの考え方とか、文化を知る。そういうことを教えるのは、ALTと接するしかないのではないかと思いますので、やはり数はいると思います。

いただいた資料を見ると、JETと外国人の数は、他市と遜色はないんですね。何が違うかは、地域講師がいないということなのか。

○教育長(松井 毅)

最初の頃は、ALTをJETで採用していました。一昨年から、地域の中で英語を母国語としている人を採用しています。

○委員(竹内 千恵子)

令和元年11月18日の資料では、白山市はゼロとなっていたので、これについては、地域講師が見つからないのか、様子見なのか、今からなのか、そのところが分からなかったのと、質問したいのと、民間委託で野々市市が4とあるのはどのような状況なのかお聞きいたします。

○学校指導課補佐(小川 正清)

地域講師の採用については平成22年頃からで、その頃はやはりご説明があ

ったように、現地の方を優先に採用していたことは事実です。それは教育長が申しました通りでございます。今、委員皆様がおっしゃったような、問題ができて、なかなか小学校の先生とのコミュニケーションがとりづらいということがありまして、現地の方で日本語も分かる方で英語を話される方を採用していたという流れはあります。日本語が出来る方を増やしていくということも考えております。

もう一つ、野々市市の民間委託については、民間業者のセット販売でALTを派遣してもらう事業で、セット事業に応じて予算を組んで派遣をしてもらっている市町は、日本全国ではかなりあります。しかし、一時期問題になったこととして、業者が、「とにかく授業のやり方を弊社にまかせてもらいたい。」というような言い方をされます。その中で先生が打合せで、こうしたいのにそれが出来ない。それをやってしまった時に、それは契約違反ではないか。というようなことが一時期問題になった事があります。ですから、そういった難しさはありますが、徐々にその辺りのことは、改善を図っているものの、依然としてそういったことを耳にしたことがあります。また、民間委託の件もかなり費用がかかりますし、そんなに安くなっていません。

さまざまなメリット、デメリットを考えたときには、やはり現地の方で、今、市内に住んでいる方、近辺に住んでいる方で日本語を話される方を、今後採用していく方が良いのではないかと考えています。

○市長(山田 憲昭)

地域講師的に言いますと、日本人であって、英語を教えるというのは少なくとも中学校がそうですし、外国人でなければだめだということは、本当はおかしい面もあります。まず英語がしゃべれる人が第一前提であるとするならば、日本人じゃなくて外国人という固定観念も本当はよくないのかもしれない。竹内委員が言うように外国文化を知ると言う意味で言えば、外国人がいい。これがあるから、そこにこだわるとそうなるのかもしれないが、英語を知ることに関しては、日本人であっても、なにも問題ありません。流れから言うと、本当は地域講師を増やしたいということです。

○委員(竹内 千恵子)

白山市では、地域講師は見つけ易いのですか。

○学校指導課補佐(小川 正清)

個人的な印象ですが、当初難しいのかなというふうに思っていたが、色々なつてでは、案外、近所の方でいらっしゃるのだなと感じることもあります。簡単にすぐ見つかるかということはありませんが、その時々です。それほど困難を極めることではありません。

○市長(山田 憲昭)

これだけ指導要領が変わったのだから、専科の先生が必要だということを文部科学省に分かってもらわないといけない。先生の配置を考えてもらわないといけない。大体、自治体に任すことがおかしいと思います。

○委員(竹内 千恵子)

そうですね。地域講師や外国人講師一人では授業を持てませんからね。日本人の先生が付かなければならなくて、日本人の先生の負担は変わらないです。やはり免許を持った専科の先生がいることがよいのですが。

○教育長職務代理者(水洞 満子)

例えば、他市でJ E TプログラムでA L Tを5年務めた方で、まだ日本にいたいという方を白山市で地域講師として雇うことができるのですか。

○市長(山田 憲昭)

J E Tの5年ルールは守らなければならないが、別の市町で雇うことは可能です。

○教育長職務代理者(水洞 満子)

白山市で5年務めたと、引き続き白山市で教えたいという方で、いい方がいれば採用していくこともありますか。

○市長(山田 憲昭)

そうですね。地域講師に切り替えて採用ということになります。

地域講師も含めて考えている方向は大体一緒でありますので、地域講師を採用し学校が混乱しないようにやっていきたいと思います。

次に「その他」について何かありますか。

ないようですので、これで議事の進行を事務局にお返しします。

○教育総務課長補佐(笹津 剛)

本日は貴重なご意見どうもありがとうございました。

本日協議いただきました議題については、皆様からのご意見を参考に取り組んでまいりたいと存じます。

これを持ちまして、令和元年度第2回白山市総合教育会議を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉会 午後4時35分